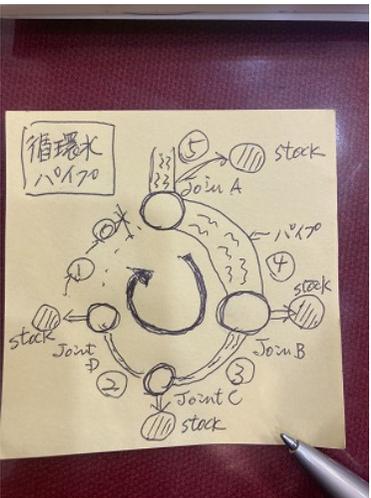


2021/7/9-2

(うと〇世話し「何故わが国だけデフレから抜け出せないのか」 譬え話版) 書庫 ver.



一連の「何故我が国だけデフレから抜け出せないのか」の記事をもっと短くわかり易くできないものかと考えておりました。

自分としては皆様方にきちんとお伝えし、是非とも分かって戴きたいからです。

それで思いついた譬えが

「循環水パイプの目詰まり」

絵としてはリング状に繋がっている水の循環パイプです。

そこに水が流し入れられます。

次に、前のパイプと次のパイプのジョイント地点で目詰まりが起こり、次のパイプに流入する水の量が減ります。

更にその次のジョイント地点で同じく目詰まりが起き、その先に行く水の量がさらに減ります。

かくして先に行くほど先細りが起こり、ついには水が注がれた地点に戻ってくる水の量はゼロになっている。

それでも初めの地点で次々に水が注ぎ入れられればいいのですが、それがたまにしか入ってこない、最後のブロックは干上がってしまう。

これを現在の我が国に当てはめてみますと、まず初めの注入口▶社に5リットルの売上高が入り、その内いざという時の為にと社員の給与アップには回らない内部留保金1リットルが抜かれたとすると、社員は潤いません。

今度は次のパイプが社員の家庭だとすると、入ってくる給料という水の量は1リットル減っていますから、当然購買に回す代金という水の量も1リットル減ったままです。

となると、次のパイプが購買される側の会社だとすると、薄利多売にして何とか水の量を回復しようと思値段を上げないよう、その会社の社員の給料という水を減らすか、商品の質という水の量を減らすかとする事になります。

そうしてその会社は、これまた内部留保用のお金という水を抜き、社員には回らないので、

その会社の社員が購買しようとする水の量がさらに減って、次のジョイント部分の会社やその社員には水すら回ってこない事態にもなる。

要するに「お金」という水、我々にとっては血液ともいえるものが途中で滞って体内をスムーズに循環していかないのも同じなのです。これを放置したままにしておけば、いつか酸素や栄養不足を起こし、場合によっては死に至る可能性すらありうるのです。

もし、上流から流れてきた水をフルのまま流していたら、こういった惨劇は起こらないのではないか？という事です。

それでは、その考えに賛同したとして、この循環の中で何処のジョイント部分が水抜きを止めるか？

というと、まずは自分の処がしない限り誰もやってくれそうもないというのが現在の我が国の心理的実態でしょう。

なので、まず自分からするしかない。

しかし、それでは立ち枯れしてしまうので、周りはその「言い出さず」を孤立させないよ

うに、みんなで赤信号を渡りましょう（お金を使いましょう）という事です。

譬えがジャストフィットで譬えになっておらず、うまく伝わらないかもしれませんが、その場合には又新たな譬えを考え出しますから。